



ボランティアが「電気カンナ」を使い除染作業を実施。側溝の表面を削り除染している。ヘルメットをかぶっている2人は伊達市の職員、右側のトラックが必要な道具を積んだ「除染カー」。



側溝のふたを裏返し除染。

放射性物質の除染を続ける 生協のボランティア組織

コープふくしま

10月号の本欄では、生協のボランティアによる除染活動について報告したが、ようやく政府主導での福島県全域を視野に入れた除染活動が始まろうとしている(2011年10月18日に野田総理が福島を訪問。同31日、細野環境大臣が本格スタートを2012年1月からと発表)。もちろん、小学校など子どもたちが多く集まる場所での除染は先行して行なわれているが、放射線量の高い地域についてはこれからというのが現状だ。できるだけ効果的な除染を模索する、コープふくしまと伊達市の取り組みを取材した。

初めに、伊達市放射能対策課、除染対策係副主幹兼係長の梅津善幸うめつよしゆきさんが

「この日試された方法は、雨水の流入および車両の通行により、震災時に飛散した放射性物質がたまり、線量が高いといわれている歩道の側溝の除染で、「側溝のふたを裏返して取り付け、かつ、ふたの周りの泥などを取り除く」というコープふくしまのアイデアだ。

トライアル&エラーにより、最適な除染方法を見つけだす

2011年10月16日(日)に行なわれた実験的な除染の取り組みには、コープふくしまがホームページで呼びかけ、結成されたボランティア組織(約500人)の中から50人が参加した。

作業手順を説明した。「まず側溝のふた上部の放射線量を測定した上で取り外します。次に、ふたの周りの溝にたまっている泥やコケ、ごみなどをスコップでかき出して収集袋に入れてください。最後にふたを裏返しに取り付け、あらためて線量の測定をお願いします。なお、駐車場の入り口などは構造上裏返すことができませんので、『電気カンナ』(写真上)で表面を削り線量を測定してください。ゴム手袋はそのままでは破れてしまう恐れがあるので、上から軍手を付けて作業してください。なお、側溝のふたは大変重いのので、けがには十分気を付けて作業をお願いします」



伊達市の職員がボランティアに作業手順を説明した。

除染と放射性物質についての Q&A

- Q1: 除染した場所は先の先も大丈夫なのですか?
- A1: 除染した場所の線量は、今後上がることはありません。
- Q2: 線量の高い場所から放射性物質が風で飛んできてくることはないのですか?
- A2: 当初飛散した放射性物質は、地面に吸着してしまうと土などと一緒に動くことしかできないので大丈夫ですが、強風の際にはマスク着用をおすすめします。
- Q3: 除染に使った道具は汚染されていないのですか?
- A3: 泥などに触れた部分を洗い流せば問題ありません。
- Q4: 着ている衣類は大丈夫ですか?
- A4: 通常の洗濯をすればまた着ることができます。なお、靴底は最も線量が高い可能性があるため、しっかり水洗いしてください。
- Q5: 洗濯物は外に干して大丈夫?
- A5: 現在、空気中に放射性物質は飛散していないので問題ありません。
- Q6: ボランティアを募集して手作業で除染活動をするのではなく、もっと効率的な方法はないのですか?
- A6: 表面を薄く削れば除染できることが分かっていて、なおかつなるべく廃棄物を出さないことが重要ですので、現状では手作業が最も効率的と考えています。

周辺住民 芳賀明恵さんと息子の啓佑くん

花屋をしているので、この場所を離れることはできません。なるべく気にしないようにしているのですが、小さな子どももいるので心配です。自分たちでできる範囲のこと、例えば家の壁を水で洗い流したりしましたが、線量が高いといわれている道路の側溝はどうしたらいいか分かりませんでした。本日、除染をしていただいて本当に助かりました。また、除染によってどのくらい線量が減ったのかを、数値で教えてもらえたので安心しました。



伊達市放射能対策課 除染対策係副主幹兼係長 梅津善幸さん

伊達市では、コープふくしまさんにご紹介いただいた田中俊一先生に、除染アドバイザーをお願いしています。また、コープふくしまさんが全国にボランティアを募集されていますので、伊達市も協力して活動していきたいと考えました。これまで小学校などの除染と一緒に実施してきた、今後広域に進めていく中でも、福島県からの支援と併せコープふくしまさんに協力していただきしたいと思います。



※2 NPO 法人放射線安全フォーラム副理事長、前内閣府原子力委員会委員長代理。



コープふくしまの野中専務(左)が線量計の使い方を説明。



隙間など細かい部分の泥などもスコップを使い丁寧に取り除く。



中央(青い服)が伊達市除染専門員の齊藤浩さん(写真1)。

続いて、コープふくしま専務理事の野中俊吉さんから、生協が貸し出す線量計の使い方が説明された。その後、参加者は6グループに分かれ、県道国見・福島線の歩道側溝の除

染作業を開始した。「除染廃棄物の仮置き場」の問題があり、なるべく廃棄物を出さないことも重要であるため、今回は、ふたにより直接触れることがない、側溝の底にたまった汚泥は取らず

そのまましておくことになった。実際に線量計で測定してみると、側溝底の汚泥やふたの周りの隙間の泥やコケ、ごみ部分で、線量が高くなっていることが確認できた。

10時半から12時半まで

除染作業を行ない、休憩を挟み、13時半から除染結果の報告と、専門業者による廃棄物仮置き方法の説明が行なわれた。

正しい情報を 知ることが大切

除染結果の報告は、伊達市職員が声掛けをした周辺住民の方々も参加し

て行なわれた。伊達市放射能対策課 除染対策係の佐藤陽介さんが、「場所によって放射線量の高い低いはありますが、本日作業をしていただいたことで、線量が5分の1から10分の1まで減りました。これは、十分な効果があったといえます。伊達市では今後放射線量の高い地区を優先して、民間の専門業者も活用しながら除染を進めていきます。ボランティアの皆さんに、協力をお願いすることも多くなってくれと思っています」と説明した。

併せて、住民やボランティアの疑問に対し、伊達市除染支援センター専門員(株)アトックス)の齊藤浩さんが、分かりやすく答えていた(左上Q&A参照)。

※1 伊達市では「仮置き場」が設置されていて除染がスタートできたが、設置には地域住民の同意が必要なため、除染に取り掛かれない地域も多数あるという。

日本生協連会員支援本部・防災担当
山岡 満

日本生協連では、これまで福島県の組合員さん対象の放射能学習会に講師を派遣したり、「福島の桃を送ろう」キャンペーンに協力したりしてきました。放射線という高いハードルに対する取り組みになりますが、募金やボランティアなど、全国の生協が今後どういった支援をすべきか考え、推進していきます。



今回の除染ボランティアについて、神奈川県平塚市から夜行バスで来た曾根田高輝さんは、「宮城や岩手にもボランティアに行きましたが、今回はコープふくしまのホームページを見て応募しました。側溝のふたを裏返すと線量が下がったことに驚きました」と話してくれました。また、大塚良治さんは、「新潟県長岡市から電車で来ました。前日もコープふくしまのHPを見て応募したのですが、希望者多数で断られてしまい、今回は初日に応募しました。福島県の皆さんのために何かできることがあればと思っています」と語った。



除染作業が終了し、参加者に継続した支援を訴える野中専務。

地域で安心して暮らし続けるために

当日の作業で出た泥やコケの中で、線量が高かった廃棄物を用い、土のうを使った放射線の遮へい実験も行なわれた（P. 26・写真上）。結果、1時間当たり測定値は下表のようになった。

つまり、仮置き場の除染廃棄物の周りを土のうで覆えば、放射線を大幅に遮へいできることが確認できました。また、伊達市では今後、土のうよりも手軽な「遮へいシート」の使用も検討しているとのことだった。

作業の最後に、コープふくしまの野中専務は、「生協の組合員さんを含め、多くの若い保護者と子どもたちが福島県外に避難されています。そういった方々が戻ってこられる環境を整えるため、少しでもお役に立ちたいと考えています。」



ボランティアの曾根田高輝さん(左)と大塚良治さん。

写真 A



写真 B



写真 C



表 土のうによる放射線の遮へい実験結果

遮へいなし	16.2マイクロシーベルト (写真 A)
測定側のみ土のうで遮へい	8.43マイクロシーベルト (写真 B)
土のうで全体を覆い遮へい	1.45マイクロシーベルト (写真 C)

コープふくしまのHPからボランティア登録ができます。

<http://www.fukushima.coop/>

に、福島で支援活動をしてきたとお話しくください。福島県に住む方々が怖くて怖くて仕方なく生活していたり、福島が全国から見放されることのないように、今後も全国の生協で福島を支えていきます」と、力強く訴えた。